博士号86歳「宇土に恩返し」

宇土市城之浦町の那須恒敏さん(86)は3月末、熊本大大学院を修了し、工学博士号を取得した。「お世話になった宇土に恩返したい」と、同市中心商店街の衰退要因を研究し、100ページ超の論文にまとめた。

熊本大大学院を修了 那須 恒敏さん

地方都市中心商店街衰退化要因に関する研究で、85歳にして熊本大工学博士号を取得した那須恒敏さん＝宇土市

那須さんは大分県下竹田村(現・竹田市)出身。大学進学を夢見たが父親の反対もあり、高校卒業後、大阪の食品加工会社に入社した。「学びの欲求不満だった」と、会社勤めの傍ら、通信制の大学や短大などで学んだ。

熊本市内の食品会社に移った後、48歳で独立。宇土市で不動産会社を起業した。その後は「休むことなく働き続けた」と振り返る。

「そろそろ仕事以外の好きなことをしてもいい」と62歳で熊本工業大(現・崇城大)に入学。その後も2001年に熊本学園大大学院で経営学修士、04年に熊本大大学院の工学修士を修了するなど学び続けた。

「宇土で商売させてもらった感謝を還元したい」と、集大成である博士後期課程の学位論文は、宇土市を事例に「地方都市中心商店街の衰退化要因に関する研究」と題してまとめた。

中心商店街の衰退研究

那須さんは宇土市街地の衰退を「産業構造」「道路ネットワーク」などの外部要因と、「店舗相互の関連度」「店主の意識」などの内部要因に分類。データや聞き取りを基にモデル化し、衰退要因として「国道3号が再整備されたことで、市街地の交通量が減少した」「食料品店が閉店すると近隣の鮮魚店も共倒れで閉店する」などの事例を導き出した。

指導した本間里見准教授(53)は「私の両親よりも年上だが、指導に対し素直に耳を傾けるなど謙虚で尊敬している」。論文については「要因分析方法は宇土だけでなく、他都市にも応用できる」と評価した。

那須さんは「英語やパソコンなどで苦労することもあったが、学ぶことへの欲求は衰えない。論文が宇土の魅力あるまちづくりに生かされれば」と話している。

(西國祥太)

2019年5月10日　熊本日日新聞　P.18